つなぐ

令和6年
10月11日

NO.1
不定期発行

昨年度から発行しました『つなぐ』。今年度は、進路・特別支援コーディネーターからの情報発信を中心に、日常の悩みへの考え方や支援の方法、気持ちの整え方などお伝えします。私たち進路・特別支援コーディネーターの業務は普段の学校生活では見えづらい部分もある立場から、どのような仕事を行っているのかの報告や、仕事を通して知ったこと、学んだことを、日常生活を彩るエッセンスとしてお伝えしていきたいと考えていますので、ぜひお楽しみください。

進路：伊藤

地域開拓コーディネーター：加賀谷

特別支援教育コーディネーター
古謝

スクールソーシャルワーカー：菱沼

スクールカウンセラー
青島

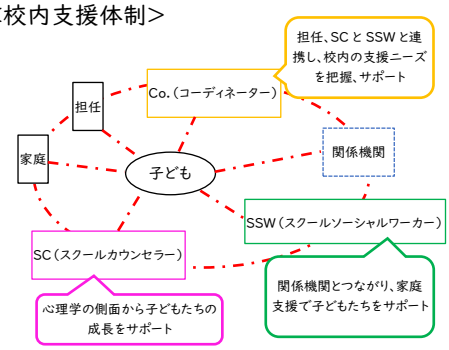
特別支援教育コーディネーターより

こんにちは。今年度より特別支援教育コーディネーターをしています古謝 美沙紀（こじゃ みさき）です。地域で子どもたちが楽しく過ごすことができる場所を探したり、活躍できる場所や方法を模索したりしています。私からは、特別支援教育コーディネーターとしての活動報告をお伝えしていきます。

校内支援体制

本校にはスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーが本校に配属されています。月2～3回程、来校しています。巡回日は、子どもも保護者も直接お話や相談をすることができます。スクールカウンセラーは子どもを心理学の面から見立て、心の扱い方などの相談について聞くことができる専門家です。スクールソーシャルワーカーは子どもの家庭のことの相談や外部機関との連携の専門家で学校の知識のある社会福祉士です。外部の支援機関についても相談できます。子どもたちが将来学校以外の場で生活していく上で、色々なサポートが受けられることはとても大切なことです。悩みを聞いてほしい、相談する場所が分からないときなど、専門家とお話する時間を設定しますので、担任や特別支援教育コーディネーターにご相談ください。

<校内支援体制>



つながりのある豊かな人生を

『人生100年』といわれる時代を迎え、学校、職場だけでなく、その後も考えることが増えてきたように感じます。今、学校で学びを積み重ねている子どもたちにはまだ長い人生が続いていて、その道には、たくさんの出会いと別れとがあることでしょう。環境が変わることは誰にとっても負担になりますが、たくさんの関わりをもつことで一つひとつの変化を小さくするという考え方もあるでしょう。また、頼れる“場”が一つきりであれば、それが失われる時、新しい“場”が見つかるまで不安に包まれることでしょう。

子どもたちが、将来まで頼れる“場”を一つでも多く持てるように考えていくことは、長い人生を支える財産となることと思います。どのような人生をあゆみ、誰と支え合って生きていきたいのか、一度、子どもと共に話し合ってみたいですね。

進路より

進路指導に関わる中で思うこと

在学中にやりたい仕事や将来の豊かな生活について生徒自身が考えることの難しさを感じることが多くあります。そんな時、自分の高校時代は将来の仕事について明確な考えは無かったことを思い出します。一方で、企業や事業所への定着を考えると、意欲や目的意識をしっかり持って働くということはとても大切になってきます。多くの働く障害のある方の話を聞くと、自分のやりたい仕事を見つけ、責任を持ち、やりがいを感じながら働いている人が、充実した社会生活を送れているように感じます。将来のことを見通して、やりたいことや自分らしさを見つけていくことは大変なことかもしれません。しかし、本校の児童生徒達が将来、誰かに決められた仕事ではなく、自分がやりがいを感じる仕事で、自分らしく生活できることを願っています

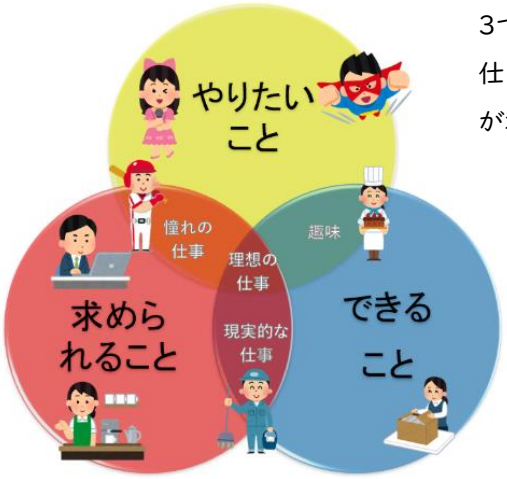
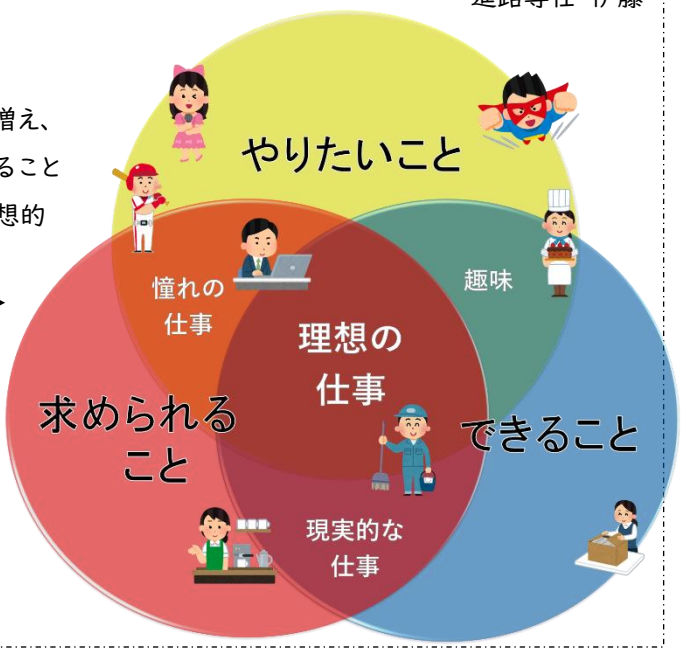
進路指導で大切にしていること

本校では、自分らしく自立し社会参加できる力を育てる進路指導を目指しています。自分らしく働ける仕事や生活について考えたり、実現に向けた目標を立て実践したりする機会を教育活動の中で作っています。進路選択は百人いたら百通りです。お金がたくさん稼げるから幸せ、稼げないから不幸ではなく、『自分らしさ』に焦点を置いた進路指導で、児童生徒達の将来が充実したものになれば良いと考えています。その中で、自分のことを知ること（自己理解）、自分のことを自分で決めること（自己選択・自己決定）も大切にしています。そんな力を育むために生徒たちに話していることがありますので紹介します。

将来の仕事を選ぶ中で、自分が『できること』（自己理解）、自分が『やりたいこと』（自己選択・自己決定）、社会に『求められること』があります。『求められること』が仕事として成り立つことで、『やりたいこと』と『できること』と合わさる部分が理想の仕事です。将来の仕事を考える中で、社会で『求められること』を学びながら、自分が『やりたいこと』を考え、自分が『できること』を知る。その 3 つに向き合い、それぞれの関係を理解しながら自分らしい進路選択を見つけていってほしいと考えています。

本校を卒業する児童生徒の力が社会で求められる機会が増えるような働きかけを地域や社会にしながら、将来に希望抱きながら、社会で活躍できる、社会の創り手となっていく児童生徒を育てていく…。そんな進路指導ができればと思っています。これからも児童生徒達の自己選択・決定をどのように支えていくか、育んでいくか、皆様と一緒に考えていければ幸いです。

進路専任　伊藤



3つのことそれぞれが増え、
仕事として選択できること
が増えていくことが理想的